

カリム・B・ハミド

Upon The End of Play and Infancy

アーティスト・ステイトメント

私が「霊的瞬間」と呼んでいる、自身の絵画についてお話しします。それは人間の目や理解において、非常に早く起こる視覚的な状態です。私は流動的な絵の具の魔法によって、その一瞬を引き伸ばしたいと思っています。その精神的な瞬間、心の目には何を見たいのか、何が見えるのか、見たもので何をしようとするのかという混乱が生じます。私はこの視覚的な混乱を絵の中で重ね合わせ、取り入れたもの全てが関連性を持つようにします。この階層化は視覚的な考古学の一つとなり、全体と同様に複合体も重要視されるようになります。私から鑑賞者にお願いできることがあるとすれば、作品の細部を探し出してほしいということです。私はある種の視覚的なスローモーションを信じています。皆さんが私の作品を熟考すればするほど、より多くのもが見えてくることを望んでいます。

作品のテーマとしては、1940年代から1950年代にかけてのピンナップ・モデルの伝統、無名またはビンテージの「ソフト」ポルノ画像、様々なアマチュア写真、ソーシャルメディアの写真、西洋美術史の宗教的伝統などを参考にし、それらを頭の中で混ぜ合わせて、新しい種類の視覚環境を作り出すことがよくあります。私は主に、観察の仕組みに焦点を当てています。私たちがどのようにものを見るのか、そして見たものに対して何をするのかに興味があります。また、物事（主に画像）をばらばらにし、それをまた元に戻して何が起こるかを見るのも好きです。

「ハミドの作品では、画像が歪んだり誇張されたりすることが多いですが、彼はまた、その歪みを極論的に、絵画的に歪めた中で、作品が自己表現することを期待しています。それは、観察されるものや人、そして観察される方法について多くを語っています。このためハミドの絵画では、芸術は必ずしも単に筋書きを読むことではなく、それを深く観察することにあるのです。」(マリア・ポージェス/アートフォーラム・マガジン/1996年)